

高齢者の身体意識と着装行動に関する研究

鮎 田 崎 子・中 村 亜由美

(被服学研究室)

(平成13年5月24日受理)

A Study of Body Awareness and How to Clothe Oneself among People of Advanced Age

Sakiko FUNADA and Ayumi NAKAMURA

I 緒 論

わが国は、1970年に老年人口比率が7%を超え、高齢化社会に、そしてわずか25年後の1995年には14.5%に達し、高齢社会に突入した。2000年には17.2%にまで達し、2015年には25%を超えるであろうと予測されている¹⁾。1999年の平均寿命は女性83.99歳、男性77.10歳だったことが報告されており²⁾、世界最長寿国となっている。今、この長い高齢期を「どう生きるか」が重要となっている。

日々の生活のなかで、被服は、身体を保護し、人が社会や文化環境へ適応し、日常生活を円滑に行うためにも不可欠なものとなっている。

衣服を装う基体としての身体は、加齢に伴い変化していく。若年期から高齢期への体型変化を人体計測値からみれば³⁾⁴⁾、高径項目、長径項目は減少傾向を示し、50歳以降の減少が顕著である。増大傾向を示すものは、男女の胴囲、女子の上腕最大囲、胸囲、腰囲である。胴囲部の変化が顕著で次第にずんどう型に移行する。女子の体型分析⁵⁾によれば、60～70代にかけて、老人体型へ骨格変化が起こると言われている。高齢者の身体は形態的に変化していく。

身体と衣服の関係について、鷺田は⁶⁾、「自分のぼんやりとした身体のイメージを衣服を着たときの摩擦により感覚的に補強している」と述べているように、衣服と身体は形態的のみならず心理的にもきわめて密接な関係にある。

高齢者の健康状態を高齢社会白書⁷⁾からみると、病気やけが等の自覚症状を訴えるのは、65歳以上の高齢者人口千人当たり、530.3を示し、半数以上が自覚症状を訴えているという。今後、さらに増加することが予測される。健康問題は、日々の暮らしに直接関わるので、身体意識、着装意識にも影響を及ぼすものと考ええる。

また、総務庁の「健康に関する意識調査」⁸⁾によると、高齢者が健康の維持増進のために心

がけていることが「ある」と答えた者は72.0%にも達しており、健康意識は高い。心がけている内容は、「栄養のバランスのとれた食事をとる」「休養や睡眠を十分とる」「散歩やスポーツをする」の順となっている。これらは、食事・休養・運動といった健康の3大要素に関するもので、高齢者の経験に基づいた、生活の中での健康づくりである。

高齢者の生活について、60～70歳を対象とした意識調査⁹⁾ からみると、男女とも心許せる人がいて、世の中に興味を持っており、物質・精神面共に、充実感・満足感があり、ゆとりのある生活をしている。また、着衣意識が積極的である者は、生活意識も高く、生活活動や人付き合い等が外向的で活発であり、豊かな高齢期を迎えるために衣生活の面からの働きかけが可能であることが明らかになっている。

一方、若者の身体意識についてみると¹⁰⁾、女子は身体への不満が強く、自分の身体を過度に意識しており、身体装飾をファッションの一部としてとらえ、気になる身体を様々な方法で装飾している。また、体型に対する満足感は着衣行動を前向きにさせるものとなっており、体型に満足している男子は、流行やファッション情報を積極的に取り入れ、体型に満足している女子は、身体のラインがでる服を好み、服装によって自分の魅力を高める着衣行動をとっている。

そこで、本研究は、先の高齢者の色彩意識と着衣行動の関連¹¹⁾ につづき、自分の身体に対する意識と着衣行動との関わりに注目し、高齢者は身体や健康状態をどうとらえ、身体意識と着衣行動はどのように関わっているのかを多角的に分析して、高齢者ができるだけ長く健康で、自立して生活し、積極的に生きがいのある生活をおくるための手がかりを得ることを意図したものである。また、若者と比較することによって、高齢者の特色をより鮮明にすることができると考える。

Ⅱ 研究方法

調査時期・方法 平成12年7月に、郵送による質問紙法で実施した。

調査対象 愛媛県松山市とその近郊に居住する60歳以上の男女を調査対象とし、男性142名、女性153名、合計295名の回答を得た。有効回収率は74.9%である。国立 E 大学卒業生の協力を得た。回答者の年齢、職業の有無は表1となる。

質問内容 自分の体型・身体各部の満足度と特徴、健康状態、健康維持増進のための心がけ、身体への装飾、若者のカラーリング・ピアスに対する意見などである。身体各部16項目に対する満足度、身体各部23項目の特徴、健康状態を4段階尺度で問い、他は自由選択法で回答を得た。着衣意

表1 回答者の属性 人 (%)

区 分		合 計	男 性	女 性
		295(100.0)	142(100.0)	153(100.0)
年 齢	60 ～ 64 歳	60(20.3)	24(16.9)	36(23.5)
	65 ～ 69 歳	208(70.5)	99(69.7)	109(71.2)
	70 歳 以 上	27(9.2)	19(13.4)	8(5.2)
職 業	あり 46 (18.0)	常 勤	17(5.8)	14(9.9)
		パ ー ト	9(3.1)	5(3.5)
		自 営 業	13(4.4)	5(3.5)
		そ の 他	14(4.7)	8(5.6)
	なし 242 (82.0)	過去に経験あり	223(75.6)	101(71.1)
		過去に経験なし	19(6.4)	9(6.3)

識・生活意識に関する項目は、高齢者の色彩意識と着装行動の関連研究¹¹⁾と共通である。

結果は、単純集計、クロス集計、数量化Ⅱ類による分析を行い、有意性を明確にするため検定を行った。

Ⅲ 結果及び考察

1. 体型・身体各部に対する満足度

自分の体型に対する満足度を4段階で問い、男女別に示すと図1となる。体型に満足しているのは、男性4.2%、女性2.0%、やや満足しているのは、男性33.8%、女性22.9%である。満足群は、男性38.0%、女性24.9%となり、女性のほうが体型に強く不満を感じている。

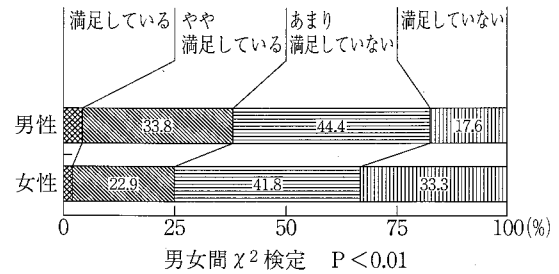


図1 自分の体型に対する満足度

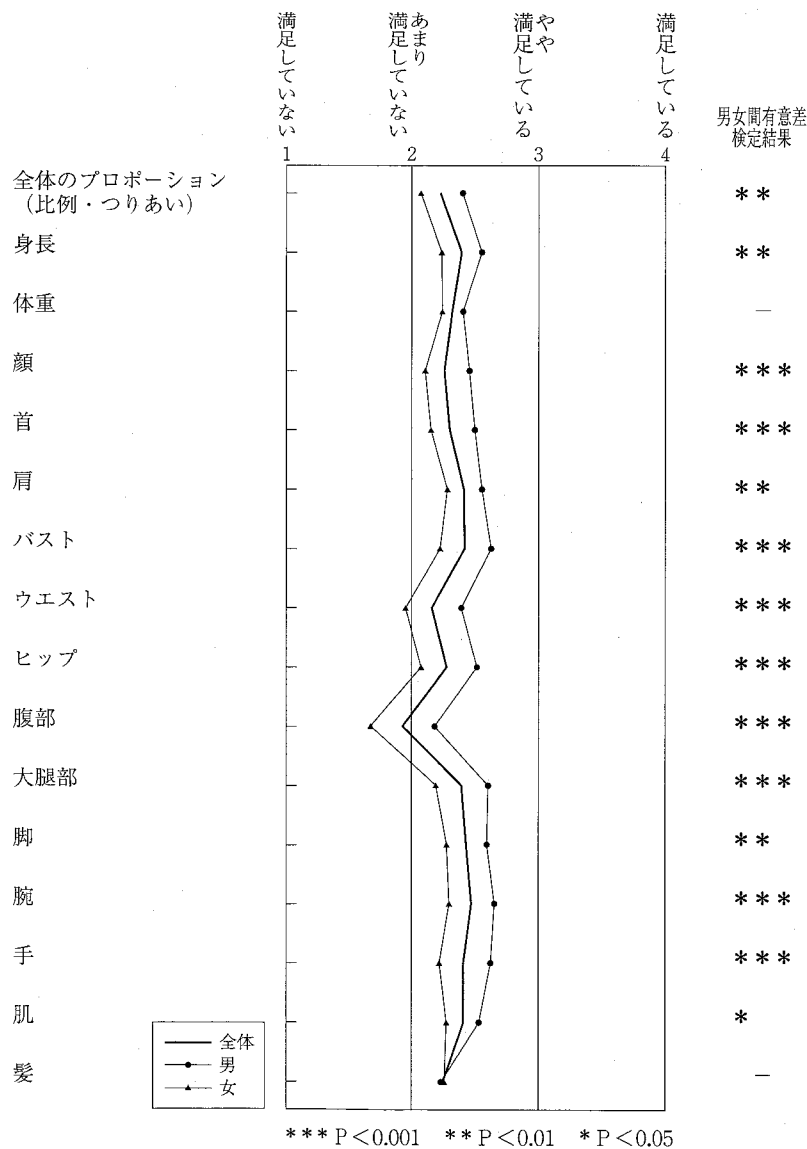


図2 身体各部の満足度 (全体・男・女)

さらに、身体各部16項目について、「満足している」から「満足していない」の4段階で回答を得て、各項目の評定に対し、4～1の評点を与えて資料とし、平均値及び各項目の評定平均値と標準偏差から男女間の有意差を検定した結果を示したのが図2である。

身体各部の満足度が高い項目は、男性においては、腕、手、バスト、大腿部、脚、女性は、腕、肌、肩、脚、髪である。一方、低い項目は、男性は、腹部、髪、ウエスト、体重、全体のプロポーション、女性は、腹部、ウエスト、全体のプロポーション、ヒップ、顔である。

男女ともに、腕や脚などの四肢の部分は満足しており、腹部、ウエストなどの身体の中心部と全体のプロポーションに不満を感じている。

男女間で有意差が認められなかったのは体重、髪の2項目のみで、あとは全て男性のほうが優位であり、身体各部の満足度は男性のほうが高い。男女間の平均値はほとんど等間隔で推移しており、身体各部の満足度に極端な差がない。

若者と比較すると、高齢者、若者ともに全体のプロポーション、腹部、ウエストの満足度は低く、髪の項目では男女間で有意差が認められない。

若者女子に不満が強い大腿部、脚に対して、高齢者は不満感が少なく、体重に対して、若者

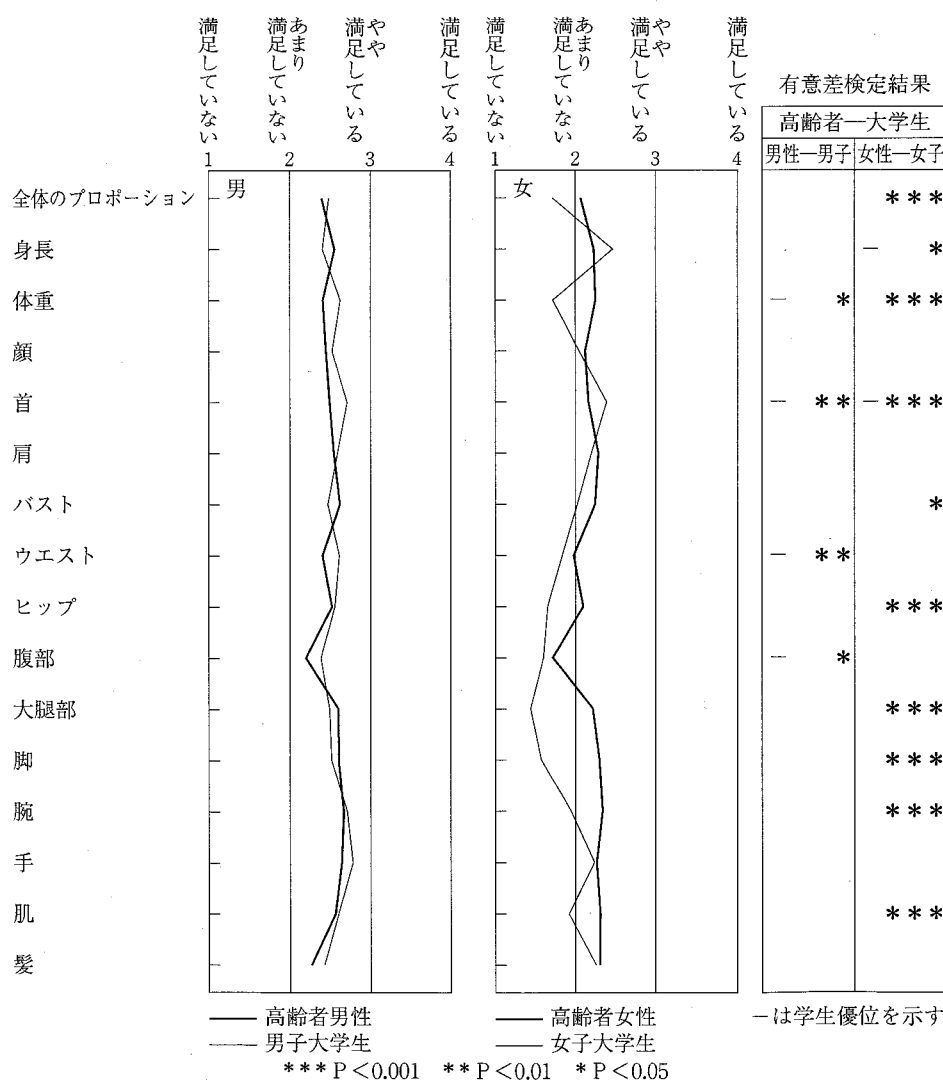


図2-2 身体各部に対する満足度の高齢者と大学生間比較（男女別）

は男女間で満足度の差が大きい、高齢者の性差はない。若者は各部分に対する満足度の差が大きく表れているが、高齢者は極端な差がない。

男女別に世代間の比較をすると（図2-2）、男性は、体重、首、ウエスト、腹部については若者のほうが満足度が高く、その他の項目には有意差がない。

女性は、身長と首のみ若者のほうが満足度が高く、全体のプロポーション、体重、バスト、ヒップ、大腿部、脚、腕、肌については高齢者のほうが満足度は高い。高齢者のほうが満足度が高い項目が多いが、これは、若者女子の満足度が低すぎるためである。全体傾向から身体満足度をみると、一番低いのは若者女子、次に高齢者女性、高齢者男性、若者男子と続く。世代は違っても、女性のほうが身体各部の満足度は低い。

2. 身体各部の特徴

身体各部の特徴をどのように意識しているかについてA・B2つの相反する特徴のどちらに近いかについて4段階尺度での評価結果をまとめたのが図3である。

自分の身体の特徴を、男性は、プロポーションが悪い、身長が低い、ウエストが太い、ヒップが大きい、脚が短く、細い、毛深くない、頭髮が白いと意識している。

女性は、プロポーションが悪い、身長が低い、なで肩、ウエストが太い、ヒップが大きい、脚が短い、毛深くない、頭髮が白く、直毛と意識している。

男女ともに身長が低く、脚が短く、プロポーションが悪いと感じており、意識の傾向が似ている。全体的に骨格が太い、首が太い、肩幅が広い、毛深いにおいては1%水準で有意差が認められた。これは、男性は女性より、肩幅が広く、首が太く、全体的に骨格が太いと意識していることで、一般的な男女の身体特徴が意識の面にも表れている。

若者と比較すると、若者男子は、毛深いととらえているのに対して、高齢者男性は毛深くないととらえている。現代の若者は清潔志向が強く、体毛に関して敏感になっており、世代間の意識の違いがみられる。

男女間に有意差が認められたのは、若者14項目に対して、高齢者は8項目である。高齢者は男女間の意識差が縮まっている。

男女別に世代間の比較をすると（図3-2）、男性については、高齢者は若者と比べて、全体的に太っている、ウエストが太い、バストが大きいなど自分の身体をがっしりとしたとらえかたをしている。女性においては、若者は、プロポーションが悪い、全体的に太っている、ヒップが大きい、大腿部、脚、腕が太いと評価しているのに対して、高齢者女性は、プロポーションが良い、やせている、小さい、細いの方にとらえている。女性のほうが、世代間の差が強く表れている。

3. 「体型の満足度」に関わる身体各部と特徴

自分の体型の満足度に身体各部と各部の特徴意識が、どのような強さと順序で作用しているかを明らかにするため、体型に満足している（やや満足しているを含む）群と満足していない（やや満足していないを含む）群を外的基準とし、身体各部16項目、身体各部の特徴23項目を説明変数として、男女別に数量化Ⅱ類による分析を行った。偏相関係数0.1以上を示すものを深く関わる要因として取り上げた（表2、3）。

自分の体型満足度に関与している身体各部は、男性は、全体のプロポーション、体重、バス

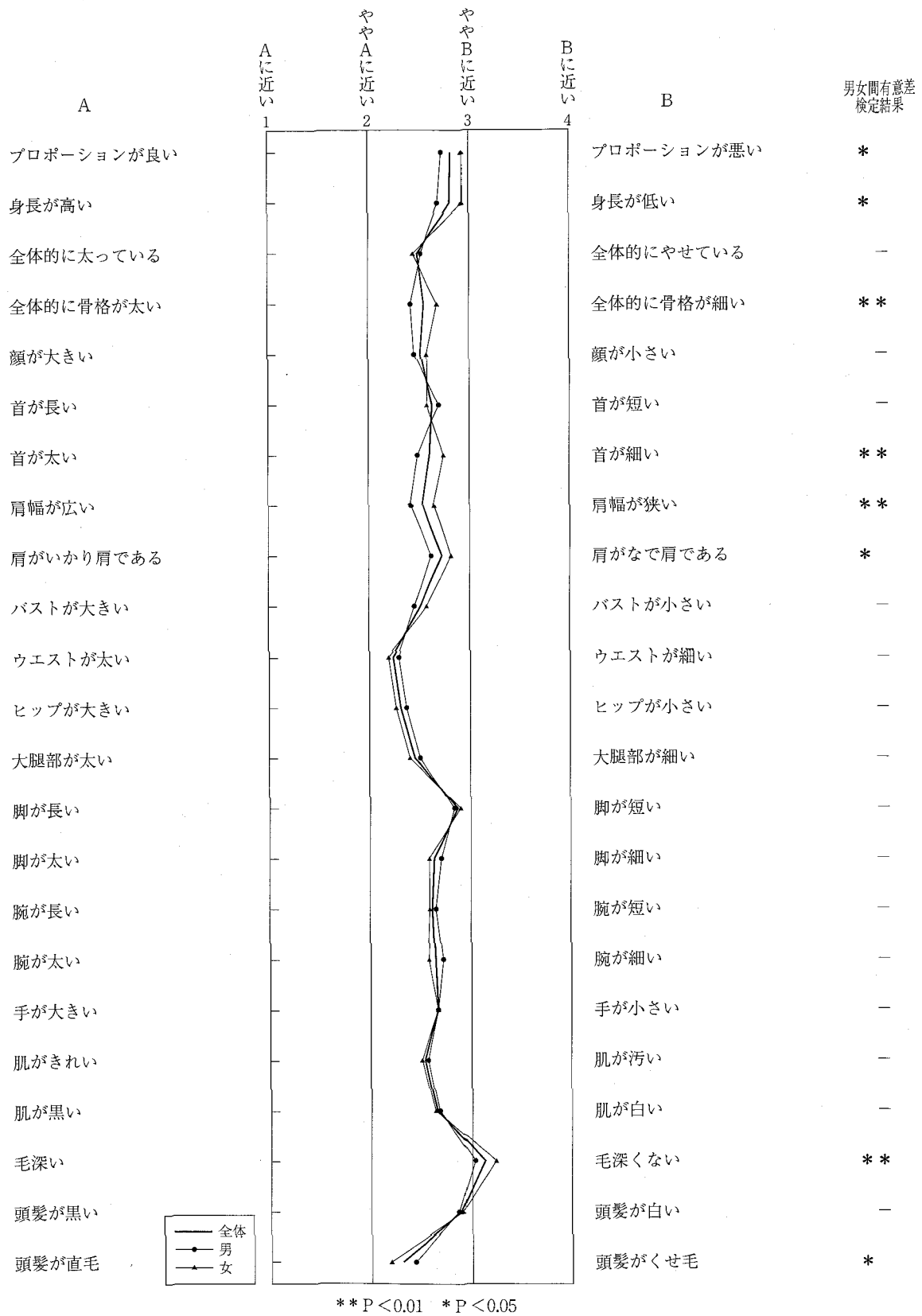


図3 身体各部の特徴 (全体・男・女)

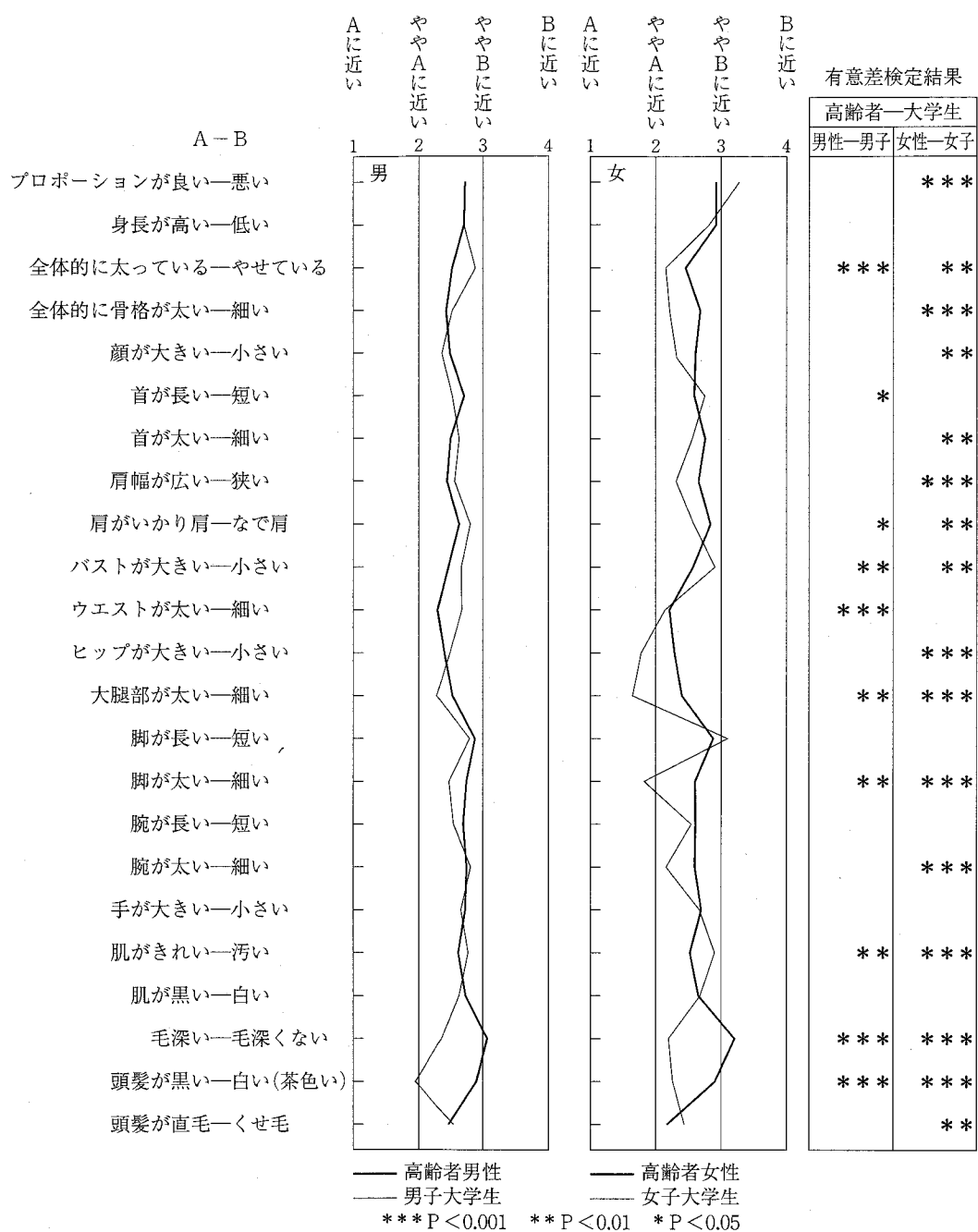


図3-2 身体各部の特徴の高齢者と大学生間比較（男女別）

ト、ヒップの順で、女性は、全体のプロポーション、腹部、バスト、髪、顔の順である。男性のバスト、女性の顔については、満足していない意識、その他の項目は満足している意識と関わっている。男性は体幹部分が、女性は体幹部分と髪、顔などよく目に付くところとの関係が深い。

若者と比較すると、男性において、高齢者、若者ともに全体のプロポーション、体重、ヒップと強く関わっているが、バストについては、高齢者は強く関わっているのに対して、若者は関わりが弱い。女性は、高齢者、若者ともに全体のプロポーション、髪、顔と関わりが強く、腹部、バストについては、高齢者は関わりが強いが若者は弱い。また、手と脚について、高齢

表2 「自分の体型に満足している」と身体各部との関係 -数量化Ⅱ類分析結果-

男 性

項 目	カテゴリー	カテゴリー ス コ ア	偏相関係数
全体のプロ ポーション	○ ×	0.659 -0.659	0.355
体 重	○ ×	0.331 -0.340	0.202
バ ス ト	○ ×	-0.326 0.548	0.174
ヒ ッ プ	○ ×	0.215 -0.262	0.115
脚	○ ×	0.164 -0.252	0.085
腹 部	○ ×	0.180 -0.107	0.074
顔	○ ×	-0.134 0.142	0.069
髪	○ ×	0.113 -0.074	0.060
身 長	○ ×	-0.074 0.107	0.047
大 腿 部	○ ×	0.068 -0.126	0.039
肩	○ ×	0.081 -0.108	0.038
腕	○ ×	0.065 -0.128	0.038
ウ エ ス ト	○ ×	-0.079 0.074	0.036
肌	○ ×	0.051 -0.060	0.029
首	○ ×	-0.029 0.036	0.016
手	○ ×	0.018 -0.034	0.011
相 関 比	0.378		

カテゴリー：○満足している ×満足していない

女 性

項 目	カテゴリー	カテゴリー ス コ ア	偏相関係数
全体のプロ ポーション	○ ×	1.013 -0.618	0.393
腹 部	○ ×	0.709 -0.125	0.159
バ ス ト	○ ×	0.296 -0.181	0.138
髪	○ ×	0.276 -0.215	0.134
顔	○ ×	-0.269 0.119	0.103
体 重	○ ×	0.180 -0.140	0.080
ヒ ッ プ	○ ×	-0.215 0.101	0.078
首	○ ×	-0.182 0.099	0.070
肩	○ ×	-0.149 0.119	0.069
身 長	○ ×	-0.115 0.078	0.060
腕	○ ×	0.121 -0.102	0.051
肌	○ ×	-0.097 0.080	0.046
大 腿 部	○ ×	-0.103 0.074	0.044
手	○ ×	0.100 -0.072	0.039
ウ エ ス ト	○ ×	0.098 -0.031	0.029
脚	○ ×	-0.060 0.053	0.028
相 関 比	0.364		

カテゴリー：○満足している ×満足していない

者は関わりが弱い若者は強い。

自分の体型満足度に関与している身体各部の特徴については、男性は、プロポーションが良い、頭髮が白い、大腿部が太い、脚が細い、ウエストが細い、脚が短い、首が細い、女性は、プロポーションが良い、大腿部が細い、ヒップが大きい、脚が短い、顔が大きい、腕が短い、毛深くない、全体的にやせている、首が長い、ウエストが太い、腕が細いである。男女ともに全体のプロポーション、脚に関する特徴が深く関わっており、大腿部については、男性は太い、女性は細いとの関わりが認められる。

若者と比較すると、男性において、高齢者、若者ともにプロポーションが良い、脚が細いの

表3 「自分の体型に満足している」と身体各部の特徴との関係 ―数量化Ⅱ類分析結果―

男 性

項 目 (A-B)	カテゴリー	カテゴリー ス コ ア	偏相関係数
プロポーションが 良い-悪い	A B	1.134 -0.696	0.468
頭 髪 が 黒い-白い	A B	-0.356 0.125	0.157
大 腿 部 が 太い-細い	A B	0.302 -0.302	0.151
脚 が 太い-細い	A B	-0.370 0.207	0.142
ウエストが 太い-細い	A B	-0.206 0.380	0.142
脚 が 長い-短い	A B	-0.377 0.153	0.132
首 が 太い-細い	A B	-0.196 0.191	0.106
腕 が 太い-細い	A B	0.274 -0.123	0.098
全体的に骨格が 太い-細い	A B	0.159 -0.194	0.096
全体的に 太っている-やせている	A B	-0.162 0.140	0.087
手 が 大きい-小さい	A B	0.189 -0.115	0.084
首 が 長い-短い	A B	0.166 -0.108	0.084
相 関 比	0.380		

カテゴリー：A=Aに近い B=Bに近い

注 23項目中11項目は記載省略

女 性

項 目 (A-B)	カテゴリー	カテゴリー ス コ ア	偏相関係数
プロポーションが 良い-悪い	A B	1.049 -0.606	0.455
大 腿 部 が 太い-細い	A B	-0.401 0.439	0.231
ヒ ッ プ が 大きい-小さい	A B	0.267 -0.438	0.206
脚 が 長い-短い	A B	-0.469 0.214	0.185
顔 が 大きい-小さい	A B	0.260 -0.244	0.176
腕 が 長い-短い	A B	-0.302 0.248	0.152
毛 深 い - 毛深くない	A B	-0.543 0.077	0.147
全体的に 太っている-やせている	A B	-0.229 0.258	0.140
首 が 長い-短い	A B	0.204 -0.196	0.129
ウエストが 太い-細い	A B	0.135 -0.278	0.109
腕 が 太い-細い	A B	-0.177 0.157	0.102
全体的に骨格が 太い-細い	A B	0.180 -0.126	0.091
相 関 比	0.393		

カテゴリー：A=Aに近い B=Bに近い

意識が強く関わっており、女性は、プロポーションが良い、腕が細いと関わりが強い。

4. 健康状態

現在の健康状態は（図4）、健康である（38.0%）、病気（けがを含む）はしていないが健康状態に不安を感じている（19.0%）、病気であるが日常生活に支障はない（38.0%）、病気をしており、日常生活に支障をきたしている（5.1%）である。

病気をしておらず、ほぼ健康であるといえるのは、男性56.4%、女性57.5%、また、健康であったり、病気をしていても日常生活を普通に送れるのは、男性95.1%、女性94.8%であり、男女間に有意差はない。ただ、健康状態に不安を感じているのは女性に多い。

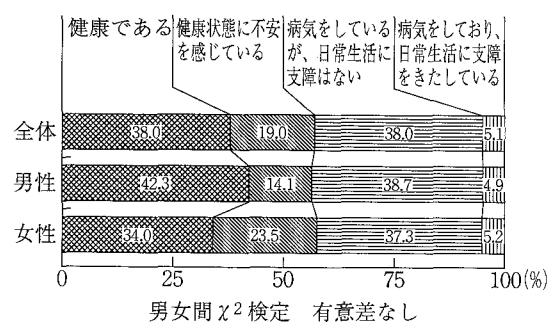


図4 現在の健康状態

5. 健康の維持増進のために心がけていること

健康の維持増進のために心がけていることについて、複数で回答を得た（図5）。男性は、栄養のバランスのとれた食事をとる（86.6%）、休養や睡眠を十分とる（72.5%）、規則正しい生活を送る（66.2%）、ウォーキング（54.2%）が多く、体操（26.1%）、スポーツ（23.2%）、ジョギング（4.9%）、何もしていない（5.6%）である。女性は、バランスのとれた食事をとる（93.5%）、規則正しい生活を送る（80.4%）、休養や睡眠を十分とる（79.1%）、ウォーキング（53.6%）、体操（45.8%）、スポーツ（26.8%）、ジョギング（3.9%）、何もしていない（0.7%）である。

男女ともに多くは食事、休養など日々の生活のなかで健康づくりを心がけている。女性は男性より、規則正しい生活、体操、スポーツなど、積極的に体を動かしている者が多く、何もしていないのはほとんどいないことから、女性のほうが健康づくり意識が高いといえる。

スポーツをしている男性23.3%（33人）、女性28.6%（41人）の実施しているスポーツの種類については（表4）、男性は、テニス（24.2%）、水泳（15.2%）、ゴルフ（15.2%）、卓球（9.1%）、女性は、水泳（36.6%）、ダンス（19.5%）、卓球（17.1%）、バドミントン（7.3%）、舞踊（7.3%）、ヨガ（7.3%）が多い。他に、アイススケート、ラグビー、水中エアロビクス、ボーリングなど運動量が激しいものから軽いものまで幅広く実施されており、身体機能の低下、各自の健康状態など個人差に対応したスポーツが選択されている。

健康維持増進のために心がけていることと健康状態との関係を分析してみると（図略）、生活の中での健康づくりは大半がしており、スポーツは健康である者が特に多く取り組んでいる。何もしていないのは、日常生活に支障がある者と健康である者が比較的多い。現在病気で

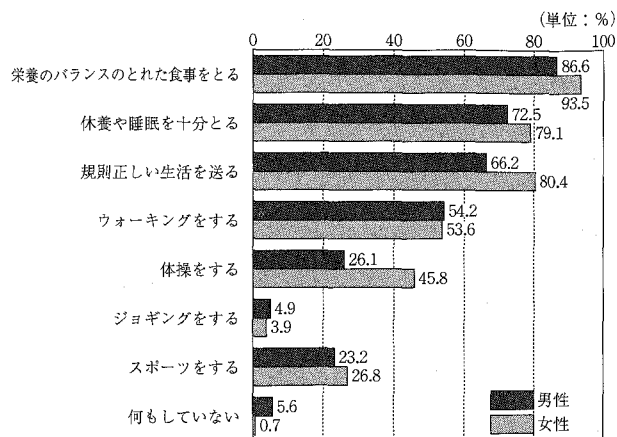


図5 健康の維持増進のために心がけていること

表4 実施しているスポーツの種類 人 (%)

種 目	合 計	男 性	女 性
	n=74	n=33	n=41
水 泳	20(27.0)	5(15.2)	15(36.6)
テ ニ ス	10(13.5)	8(24.2)	2(4.9)
卓 球	10(13.5)	3(9.1)	7(17.1)
ダ ン ス	10(13.5)	2(6.1)	8(19.5)
ゴ ル フ	5(6.8)	5(15.2)	0(0.0)
バドミントン	5(6.8)	2(6.1)	3(7.3)
舞 踊	3(4.1)	0(0.0)	3(7.3)
ヨ ガ	3(4.1)	0(0.0)	3(7.3)
サイクリング	2(2.7)	0(0.0)	2(4.9)
ボーリング	2(2.7)	0(0.0)	2(4.9)
アイススケート	1(1.4)	1(3.0)	0(0.0)
サ ッ カ ー	1(1.4)	1(3.0)	0(0.0)
ゲートボール	1(1.4)	1(3.0)	0(0.0)
グランドゴルフ	1(1.4)	1(3.0)	0(0.0)
ソフトボール	1(1.4)	1(3.0)	0(0.0)
ラ グ ビ ー	1(1.4)	1(3.0)	0(0.0)
フィールドワーク	1(1.4)	1(3.0)	0(0.0)
ス キ ー	1(1.4)	0(0.0)	1(2.4)
筋力トレーニング	1(1.4)	0(0.0)	1(2.4)
水中エアロビクス	1(1.4)	0(0.0)	1(2.4)
太 極 拳	1(1.4)	0(0.0)	1(2.4)
登 山	1(1.4)	0(0.0)	1(2.4)
百 人 一 首	1(1.4)	0(0.0)	1(2.4)

注 スポーツを実施している人に対する割合を示す

諦めの気持ちと健康を過信し、健康づくりに無頓着であることかと思われる。

6. 身体への装飾と装飾をする理由

服飾は自分の身体を装飾するものであるが、ここでは、身体（顔、髪も含む）に直接施す装飾について問うた（図6）。

自分の身体に装飾しているのは、男性13.4%、女性94.1%である。男性の身体装飾は、すべて白髪染めである。

女性の身体装飾は、化粧（88.9%）、ネックレス（62.1%）、白髪染め（56.9%）、イヤリング（22.2%）、マニキュア（12.4%）、カラーリング（9.2%）、ピアス（0.7%）である。女性にとって化粧は必要不可欠なものとなっている。若者によく見られるカラーリング、ピアスについては、カラーリングを女性9.2%、ピアスを0.7%がしている。

身体装飾と年齢の関係を分析してみると、積極的に身体への装飾を行っているのは、高齢者の中でも比較的若い層（60歳～64歳）である。

身体装飾の有無と健康維持増進のための心がけとの関わりをみると、装飾をしている者のほうが装飾していない者よりスポーツ、体操をし、規則正しい生活を送り、積極的に健康づくりをしている率が高い。身体装飾をすることは、身体意識を高めることにつながるといえる。

身体装飾をする理由について問うと（図7）、男性が白髪染めをするのは、身だしなみとして（63.2%）、若く見せたい（42.1%）、イメージを変えたい（10.5%）、自分に自信を持ちたい（10.5%）である。女性は、身だしなみとして（89.6%）、ファッションを楽しみたい（36.8%）、きれいになりたい（30.6%）、若く見せたい（28.5%）が多い。

装飾をしないのは（図8）、今のままがいい、いいと思わない、めんどろうだということである。

身体を装飾するのは、身なりを整えたり、実際の年齢より若く見せたいからであり、イメージを変えたい、カッコよくなりたいは少なく、他人と差をつけたいためではない。一方、装飾

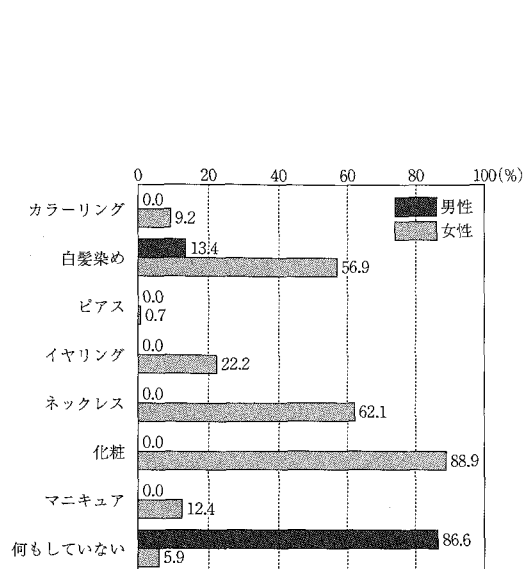
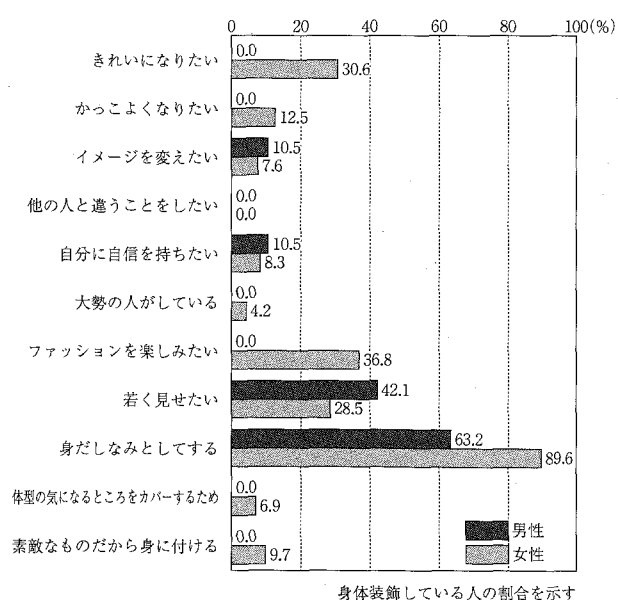


図6 身体への装飾



身体装飾している人の割合を示す

図7 身体への装飾をする理由

しないのは、男女ともに自然なままの状態に満足し、いいと思わないからである。

身体装飾別に装飾の理由を分析してみると、白髪染め、化粧、マニキュア、ネックレス、イヤリングは身だしなみとしての意識が強く、カラーリング、ピアスはファッションを楽しみたい、きれいになりたいの意識が強い。

若者の身体装飾は¹⁰⁾、身体加工といえる内容で積極的であり、人目を気にせず、自分の価値観、好みを追求している特徴があり、高齢者の身体装飾との差異がある。

7. 若者のカラーリング・ピアスに対する意見

現代の若者がしているカラーリングとピアスについては(図9)、男性は、どこがいいのか理解できない(64.1%)、身体に傷をつけるのはよくない(37.3%)、似合っていない(36.6%)、奇抜でおかしい(34.5%)、関心はない(28.9%)という意見が多い。

女性は、どこがいいのか理解できない(46.4%)、身体に傷をつけるのはよくない(41.2%)、似合っていない(30.7%)、おしゃれを楽しんでいる(27.5%)、奇抜でおかしい(26.8%)、自由でよい(20.3%)となる。

カラーリングとピアスについて、高齢者の多くは批判的にみている。その一方で、自由でよい(男性19.0%、女性20.3%)、おしゃれを楽しんでいる(男性10.6%、女性27.5%)、個性的でよい(男性4.2%、女性9.2%)と肯定している者もあり、特に女性に多い。しかし、良いと思うから自分も参考にしたいと考える者はあまりおらず(男性0.0%、女性0.7%)、好意的にみても、自分のおしゃれにまで取り込もうとはしていない。ピアスについては、身体に傷をつけるのはよくないと考えている。

関心がない(男性28.9%、女性11.1%)のは、男性のほうが多く、女性のほうが若者のファッションに対して強く関心を示している。

若者のカラーリング・ピアスに対する意見を自己への身体装飾と意識との関係から分析すると、身だしなみとして化粧や白髪染めをしている者は批判意見が多いが、カラーリング、ピアスをしている者は、自由でよい、個性的でよい、おしゃれを楽しんでいるとみており、自らおしゃれを楽しんでいる者ほど、全体的に肯定している者が多い。自分自身がおしゃれを楽し

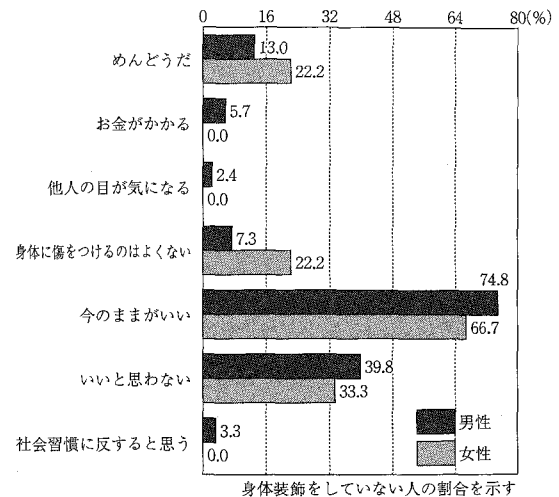


図8 身体への装飾をしない理由

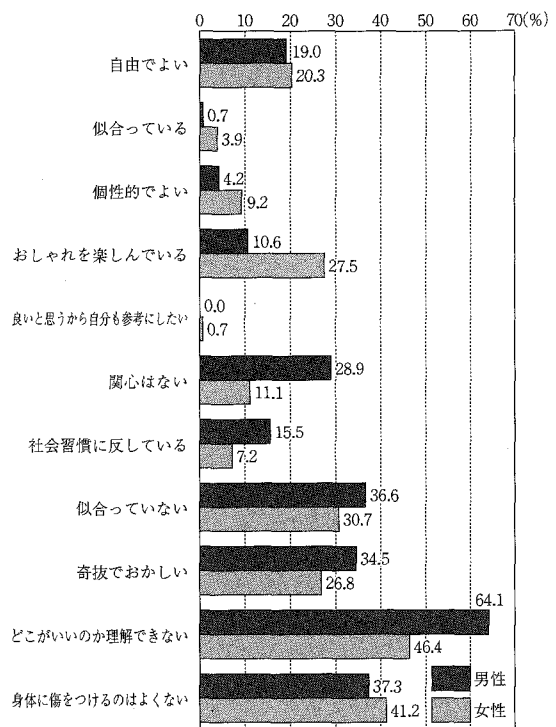


図9 若者のカラーリング・ピアスに対する意見

み、高齢者の間ではまだ身近となっていないカラーリング、ピアスに挑戦している者は、若者の行動に柔軟な理解を示している。

表5 2群間の χ^2 検定結果—着装意識・色彩意識・生活意識との関連

着 装 意 識 項 目	性 別 女—男	体型の満足度別		健康状態別	身体装飾別
色 彩 意 識 項 目		満足—不満足		健康—病気	有—無
生 活 意 識 項 目		男 性	女 性	全 体	全 体
服を着ることは楽しい	***		*		***
動きやすい服装を好む	*				
着心地の良いものを着る	***				*
着脱しやすいものを着る	**				
シンプルで飽きのこないものを着る	*				
時間・場所・目的に合った服装を心掛けている	***				***
服装によって若く見せるよう心掛けている	***				***
流行を取り入れるようにしている	***	*	***		***
様々なタイプのファッションに積極的に挑戦している	***		**		***
衣服で体型の欠点をカバーしている	***		—*		***
体の線がはっきり出るタイトな服装をするのが好きである				**	***
自分らしく自己表現できるものを着ている	***				*
自分の服装の好みが決まっている	***				***
服を着て自分がどのように見えるか気になる	***				***
服装から人を判断することがある					
自分はおしゃれを楽しんでいる	***		*		***
ファッションの情報をよく取り入れている	***		**		***
衣服の購入にお金をかけている	***				***
自分の体型に合う衣服を入手できている	**				**
自分の好みの衣服を入手できている	***	*			***
衣服の色にこだわる	**				**
流行の色は取り入れるようにしている	**				***
いろいろな色の衣服を着ている					
着る目的や場所を考えて、色を選ぶようにしている	***				***
着ている衣服の色によって気分が左右されやすい	*	*			***
1つの色に執着している					
自分らしさを表現できる色遣いをしている	***				**
人とは違う奇抜な色遣いをしている					
色の好みがよく変わる					
自分に似合う色が何色か、よく分かっている	***				***
どんな色も抵抗なく着ている					
一度に使う色数は控えめにしている	***				***
服装全体を同系色で統一することが多い	***				***
膨張色を着ることを避けている					
衣服の色そのものより、組み合わせの配色を重視している	***				***
無彩色だけで統一した服装をすることがよくある					
バッグや履物・靴の色にも気を配る	***				***
その日の服装とハンカチの色の組み合わせにも気を配る	***				***
色に関する情報をテレビや雑誌などからよく取り入れている	***	*			***
家具やカーテンなど、インテリアの配色にも気を配る	***			—*	***
自分の着たい色の服や、欲しい色の持ち物などを入手できている	***				***
趣味やグループ活動など打ち込めるものがある	**				**
生活の中に運動やスポーツ活動を取り入れている					
友人、仲間、近所の人との付き合いは多い	***				***
外出することが多い	*	**			*
世の中の動きに興味がある					
身の回りのものに好みを反映させている	***				***
目標を持って努力していることがある	**	**		*	*
毎日が楽しく過ごせている			**	*	
今、購入したい物がある					
自分の体型に満足している	—**	—	—		
自分の衣生活に満足している		***	**	*	
自分の生活に満足している		**	*	**	

—は男子優位、否定群優位を示す

***P<0.001 **P<0.01 *P<0.05

8. 身体意識の具体的内容と着装・色彩・生活意識との関わり

「体型に満足している」「健康状態」「身体装飾の有無」と着装・色彩・生活意識との関わりを調べるために、3項目の反応を、そう思う（ややそう思うを含む）とそう思わない（ややそう思わないを含む）の2群とし、着装に関する20項目、色彩に関する21項目、生活に関する12項目とクロス集計して、それぞれとの関係を探った（表5）。

体型に満足している男性は、流行や色の情報を積極的に取り入れ、衣服の色にも関心があり、好みの衣服も入手して、衣生活、生活に満足していて、外出が多く、目標を持って努力していることがある。体型に満足している女性は、ファッションの情報や流行を取り入れ、様々なファッションに挑戦し、おしゃれを楽しみ、衣生活に満足している。生活にも満足していて、毎日が楽しく過ごせている。体型に満足していない女性は、衣服で体型欠点をカバーしている。

健康状態を健康であると認識している者は、自己表現できる服装をし、衣生活に満足している。目標を持って、生活にも満足していて、毎日が楽しく過ごせている。

病気をしていると認識している者は、家の中のインテリアの配色に気を配るという意識が高い。

身体への装飾をしている者は、着装に楽しさを感じ、ファッションの情報や流行を取り入れ、様々なファッションに挑戦し、自己表現を心がけ、おしゃれを楽しんでいる。衣服にもお金をかけ、身の回りのものに好みを反映させている。周囲を意識し、自分を若く見せようと心がけている。自分の好みや体型に合った衣服を入手し、体型欠点をカバーしている。人付き合いが多く、外出も多く、打ち込めるものがあり、目標を持って努力し、生活に満足している。

体型の満足感が、男女とも生活、衣生活の満足感につながり、女性は積極的な着装行動へつながっている。健康である者は、生活意識が高く、病気をしている者は、活動範囲が狭まるため、身近なものに対して意識が強く働く。着装は身体を覆う装飾であり、身体への装飾を行っている者は、着装意識、色彩意識が積極的である。着装・色彩・生活意識と、体型への満足感、健康状態、身体装飾の有無は深く関わっていることが明らかとなった。

9. 身体意識の類型化—着装意識・色彩意識・生活意識との関連—数量化Ⅲ類・クラスター分析結果

着装意識20項目の反応パターンをもとに数量化Ⅲ類による分析を行い、析出された軸へのサンプル得点をもとにクラスター分析を行った結果、男女ともに3タイプに分類できた。男女別に各タイプと身体意識、健康維持増進のための心がけ、身体への装飾の項目とのクロス集計を行い、タイプの特徴を分析した。表6-1、6-2は各タイプに高い率で表れた項目の割合及び構成比を示している。

タイプ別人数は、男性のタイプ1（44.4%）、タイプ2（50.7%）、タイプ3（4.9%）で、女性のタイプ1（20.9%）、タイプ2（67.3%）、タイプ3（11.8%）である。

1) 男性の類型化

(1) 身体意識のタイプ別特徴

タイプ1は、体型、腹部、髪に満足していない。頭髪が白く、なで肩で、腕が細く、脚が細くて短く、プロポーションが悪いと意識している。強く不満に思っている部分があり、身体各部を、一般的に男らしくないひ弱なとらえかたをしている。

高齢者の身体意識と着装行動に関する研究

表6-1 男性のタイプ別状況

タイプ 構成比	身体意識に関する上位項目		健康維持増進のために心がけていること(%)
	体型・身体各部の満足度 (%)	身体各部の特徴 (%)	身体への装飾の種類 (%)
タイプ1 63人 (44.4%)	体型に満足していない (73.0)	毛深くない (87.3)	栄養のバランスのとれた食事をとる (81.0)
	腹部に満足していない (69.8)	腕が細い (76.2)	休養や睡眠を十分とる (65.1)
	髪に満足していない (66.7)	脚が短い (74.6)	規則正しい生活を送る (65.1)
		なで肩である (73.0)	白髪染めをしていない (90.5)
		頭髪が白い (73.0)	
		プロポーションが悪い (69.8)	
		脚が細い (66.7)	
タイプ2 72人 (50.7%)	腕に満足している (72.2)	毛深くない (83.3)	栄養のバランスのとれた食事をとる (90.3)
	大腿部に満足している (70.8)	頭髪が白い (76.4)	休養や睡眠を十分とる (77.8)
	手に満足している (68.1)	脚が短い (66.7)	規則正しい生活を送る (66.7)
	脚に満足している (66.7)	ウエストが太い (65.3)	白髪染めをしていない (83.3)
	バストに満足している (65.3)		
タイプ3 7人 (4.9%)	体型に満足している (85.7)	ヒップが大きい (100.0)	栄養のバランスのとれた食事をとる (100.0)
	大腿部に満足している (85.7)	大腿部が太い (100.0)	休養や睡眠を十分とる (85.7)
	脚に満足している (85.7)	肩幅が広い (85.7)	規則正しい生活を送る (71.4)
	腕に満足している (85.7)	バストが大きい (85.7)	ウォーキングをする (71.4)
	手に満足している (85.7)	ウエストが太い (85.7)	体操をする (42.9)
	全体のプロポーションに満足している (71.4)	脚が短い (85.7)	スポーツをする (42.9)
	首に満足している (71.4)	肌が黒い (85.7)	白髪染めをしていない (85.7)
	肩に満足している (71.4)	全体的に太っている (71.4)	
	バストに満足している (71.4)	全体的に骨格が太い (71.4)	
	ウエストに満足している (71.4)	首が太い (71.4)	
	ヒップに満足している (71.4)	いかり肩である (71.4)	
	肌に満足している (71.4)	腕が長い (71.4)	
	髪に満足している (71.4)	毛深くない (71.4)	

表6-2 女性のタイプ別状況

タイプ 構成比	身体意識に関する上位項目		健康維持増進のために心がけていること(%)
	体型・身体各部の満足度 (%)	身体各部の特徴 (%)	身体への装飾の種類 (%)
タイプ1 32人 (20.9%)	腹部に満足していない (81.3)	毛深くない (90.6)	栄養のバランスのとれた食事をとる (96.9)
	ウエストに満足していない (68.8)	頭髪が白い (75.0)	休養や睡眠を十分とる (90.6)
	顔に満足していない (65.6)	ウエストが太い (71.9)	規則正しい生活を送る (90.6)
		脚が短い (68.8)	ウォーキングをする (75.0)
		腕が短い (68.8)	体操をする (53.1)
		身長が低い (65.6)	化粧をする (93.5)
		ヒップが大きい (65.6)	ネックレスをする (77.4)
			白髪染めをする (58.1)
タイプ2 103人 (67.3%)	体型に満足していない (80.6)	毛深くない (90.3)	栄養のバランスのとれた食事をとる (92.2)
	腹部に満足していない (86.4)	頭髪が白い (69.9)	規則正しい生活を送る (78.6)
	ウエストに満足していない (76.7)	肌が白い (68.9)	休養や睡眠を十分とる (77.7)
	ヒップに満足していない (68.0)	ウエストが太い (68.0)	化粧をする (96.0)
		首が細い (67.0)	ネックレスをする (64.0)
		プロポーションが悪い (66.0)	白髪染めをする (60.0)
		なで肩である (66.0)	
タイプ3 18人 (11.8%)	体型に満足していない (83.3)	脚が短い (88.9)	栄養のバランスのとれた食事をとる (94.4)
	顔に満足していない (94.4)	首が細い (77.8)	規則正しい生活を送る (72.2)
	バストに満足していない (88.9)	プロポーションが悪い (72.2)	休養や睡眠を十分とる (66.7)
	肩に満足していない (83.3)	身長が低い (72.2)	化粧をする (84.6)
	ウエストに満足していない (83.3)	頭髪が白い (72.2)	白髪染めをする (69.2)
	ヒップに満足していない (83.3)	肩幅が狭い (66.7)	ネックレスをする (53.8)
	腹部に満足していない (83.3)	なで肩である (66.7)	
	手に満足していない (83.3)	大腿部が太い (66.7)	
	首に満足していない (77.8)	腕が細い (66.7)	
	大腿部に満足していない (77.8)	毛深くない (66.7)	
	肌に満足していない (72.2)	頭髪が直毛 (66.7)	
	髪に満足していない (72.2)		
	全体のプロポーションに満足していない (66.7)		
	身長に満足していない (66.7)		

タイプ2は、手、腕、脚、大腿部、バストに満足している。頭髮が白く、ウエストが太く、脚が短い、毛深くないと意識している。四肢の部分に満足しており、身体特徴のとらえかたは、タイプ1とタイプ3の中間にあたる。

タイプ3は、バスト、ウエスト、ヒップなどの体幹部分、腕や脚などの四肢の部分、肌や髪などの細部、プロポーション、体型に満足している。首が太く、いかり肩で、肩幅が広く、骨格が太く、バスト、ヒップが大きいと意識している。身体各部を男らしいがっしりとしたものととらえ、満足部位も多い。

(2) 健康維持増進のために心がけていることのタイプ別特徴

タイプ1とタイプ2は、食事、休養に配慮し、規則正しい生活を送るなど日常生活の中での健康づくりを行っている。

タイプ3は、食事、休養、規則正しい生活を心がけている他に、ウォーキング、体操、スポーツを積極的に行っている。

(3) 身体装飾の種類のタイプ別特徴

白髪染めについては、いずれのタイプもしていない者が多い。

以上をまとめると、タイプ3は、体型に満足していて、身体各部の満足部位が多く、身体の特徴も大きくがっしりとしたとらえかたをし、健康づくりも積極的に行っている。それに対してタイプ1は、体型に満足しておらず、不満部位もあり、身体の特徴も弱々しいととらえていて、健康づくりは生活の中での基本的なことを行っている。タイプ2は、タイプ1とタイプ3の中間にあたる。

2) 女性の類型化

(1) 身体意識のタイプ別特徴

タイプ1は、顔、腹部、ウエストなどの目につきやすいところ、脂肪のつきやすいところに満足していない。腕、脚が短く、ウエストが太く、ヒップが大きく、身長が低いと意識している。

タイプ2は、体型と腹部、ウエスト、ヒップなどの脂肪がつきやすいところに満足していない。首が細く、なで肩、ウエストが太く、肌が白く、プロポーションが悪いと意識している。

タイプ3は、腹部、ウエストなどの体幹部分、手、肌、髪などの細部、全体のプロポーション、体型に満足していない。頭髮が白くて直毛、首が細く、肩幅が狭く、なで肩、大腿部が太くて、脚が短く、身長が低くて、プロポーションが悪いと意識している。不満部位が多い。

(2) 健康維持増進のために心がけていることのタイプ別特徴

タイプ1は、食事、休養、規則正しい生活を心がけている他に、ウォーキング、体操を積極的に行っている。

タイプ2とタイプ3は、食事、休養、規則正しい生活など日常生活の中での健康づくりを行っている。

(3) 身体装飾の種類のタイプ別特徴

タイプ1とタイプ2は、化粧、ネックレス、白髪染めの順に多いが、タイプ3は化粧、白髪染め、ネックレスの順である。若者の間で身近になっているカラーリングをしているのは、タイプ1とタイプ2、ピアスはタイプ1である。

以上をまとめると、タイプ1は、他のタイプに比べて身体各部の不満部位が少なく、健康づくりも積極的に行っている。それに対してタイプ3は、体型に満足しておらず、不満部位も多

く、取り組みやすいことで健康の維持増進を心がけている。タイプ2はタイプ1とタイプ3の中間にあたる。

Ⅳ 要約・結論

高齢者の身体意識と着装行動の関係を明らかにするため、松山市とその近郊に在住する高齢者（60歳以上）男女295名を対象に調査を行い、若者の意識とも比較した結果、次のことが明らかとなった。

1. 身体各部のうち、男性は、腕、手、バスト、大腿部、脚の満足度が高く、腹部、髪、ウエスト、体重、全体のプロポーションに対する満足度は低い。女性は、腕、肌、肩、脚、髪の満足度は高く、腹部、ウエスト、全体のプロポーション、ヒップ、顔に対する満足度が低い。男女ともに腕や脚などの四肢の部分は満足しており、腹部、ウエストなどの体幹部と全体のプロポーションに不満を感じている。女性のほうが自分の体型、身体各部の不満が多く、強い。

若者と比較すると、高齢者は各部分に対する満足度に極端な差がない。全体傾向から身体満足度をみると、一番低いのは若者女子、次に高齢者女性、高齢者男性、若者男子の順となる。

2. 男性は、プロポーションが悪く、身長が低く、ウエストが太く、ヒップが大きく、脚が短くて細く、毛深くなく、頭髮が白いと認識し、女性は、プロポーションが悪く、身長が低く、なで肩、ウエストが太く、ヒップが大きく、脚が短く、毛深くなく、頭髮が白くて直毛ととらえている。

若者と比較すると、高齢者男性は毛深くないととらえているのに対し、若者男子は、毛深いと認識している。現代の若者は清潔志向が強く、世代間の意識差となっている。男性は、高齢者のほうが自分の身体をがっしりとしたとらえかたをし、女性は、高齢者のほうがプロポーションが良い、全体的にやせている、ヒップが小さい、大腿部、脚、腕が細いにとらえている。

3. 体型の満足度に関与している身体部分は、男性は、プロポーション、体重、バスト、ヒップ、女性は、プロポーション、腹部、バスト、髪、顔であり、体型の満足度に関与している特徴については、プロポーションの良さ、大腿部・脚・腕の長さや太さ、ウエストやヒップの太さが深く関わっている。

4. 現在の健康状態は、健康である（38.0%）、病気はしていないが健康状態に不安を感じている（19.0%）、病気をしているが日常生活に支障はない（38.0%）、病気のため日常生活に支障がある（5.1%）であり、男女間に有意差はない。

5. 男女ともに多くは、栄養のバランスのとれた食事、十分な休養や睡眠など日々の生活の中で健康づくりを心がけている。女性は、規則正しい生活、スポーツなど積極的に体を動かしている者が男性より多く、健康づくりに熱心である。

6. 男性の身体装飾は白髪染めのみで、女性は、化粧、ネックレス、白髪染め、イヤリング、マニキュア、カラーリング、ピアスの順に多い。身体装飾するのは、身なりを整えたり、若く見せたいからであり、他人と差異をつけたいためではない。身体装飾をすることは、身体意識を高めることにつながっている。

7. 若者のカラーリング・ピアスに対して、多くの高齢者は批判的にみている。好意的にみているのは男女とも約20%である。若者のファッションに女性のほうが関心をもっており、自ら装飾し、おしゃれを楽しんでいる者は、柔軟な理解を示している。

8. 体型に満足している者は、流行やファッション情報を取り入れるなど積極的な着装行動をとり、生活意識も高く、衣生活、生活満足感が高い。

健康であると認識している者は、自己表現できる服装を心がけ、生活意識が高く、生活、衣生活の満足度は高い。病気をしている者は、家具やカーテンなどの身の回りのものに対して意識が働く。

身体への装飾をしている者は、着装意識、色彩意識、生活意識のすべてにおいて積極的である。

9. 数量化Ⅲ類、クラスター分析により、身体意識と着装・生活意識との関わりをみると、男性は、自分の身体に満足し、身体特徴を男らしい、がっしりとしたものととらえ、健康づくりも積極的に行っているタイプ、四肢の部分に満足し、食事、休養、規則正しい生活など基本的な生活を心がけているタイプ、自分の身体に満足しておらず、身体各部を一般的な男らしくないと思えたかたをし、基本的なことは心がけているタイプとなる。

女性は、身体各部の不満が少なく、積極的に健康づくりを行っているタイプ、自分の身体に満足しておらず、基本的な生活を心がけているタイプ、身体各部に不満が多く、基本的な生活を心がけているタイプである。

着装・色彩・生活意識と、体型満足感、健康状態、身体装飾の有無は深く関わりがある。

以上のように、身体意識と着装行動の関連、男女の共通性や差異をとらえることができた。

高齢者の自分の身体に対する意識には性差があるが、若者の意識差ほど大きくない。身体意識を体型満足感からみると、体型に満足している男性は、流行や色の情報を取り入れ、衣服の色に関心があり、体型に満足している女性は、着装に楽しさを感じ、流行やファッション情報を取り入れ、様々なファッションに挑戦するなど積極的な着装行動をとっている。

健康状態からみると、健康である者は、自己表現できる服装を心がけており、生活意識が高く、生活、衣生活にも満足している。

身体装飾は、身だしなみを配慮する気持ちから行っているが、身体装飾をしている者は、着装行動が積極的で、色彩に対する関心が広くて高く、健康づくりにも前向きであり、趣味やグループ活動、人付き合いなどの生活意識が高い。

着装意識、生活意識が積極的な者は、身体に対する不満感が少なく、健康づくりも熱心に行っている。

このように、着装意識や体型満足感、健康状態、身体装飾の面から高齢者の心身を活性化させることができる。

高齢者が、自分の身体を過度に意識することなく、健全に評価し、人との関わりの中なかで、身体に対する思いを大切にしながら着装していくことは、心身の健康、暮らしの活性化につながる。人付き合いを積極的に行い、自らの価値観で衣服を選択し、自己表現することによって、時代とともに移りゆくファッション感覚にも適応していくことができる。その柔軟な姿勢は、暮らしの中においても、生活意識を高め、心の若さを保つ手だてとなる。

終わりに、調査にご協力下さいました皆様に深く感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 厚生省 平成12年版厚生白書 ぎょうせい 6～7 (2000)
- 2) 厚生省 99年簡易生命表 2000年8月9日付愛媛新聞
- 3) 鮎田崎子 前場貴子 人体計測による体格・体型の研究(2)－中高年齢期の変化と特徴－ 愛媛大学教育学部紀要 第I部 教育科学 第44巻 第1号 145～164 (1997)
- 4) 鮎田崎子 徳吉克子 宮内朋子 人体計測による体格・体型の研究(4)－中高年齢期の変化と特徴(2) 衣服・靴・家具とのかかわりを中心に－ 愛媛大学教育学部紀要 第I部 教育科学 第45巻 第1号 149～173 (1998)
- 5) 岩崎謙次 三吉満智子他 中高年女子の体型変化(第1報)－判別分析による中高年体型の比較－ 日本繊維製品消費学会誌 繊維製品消費科学 Vol.39 No.5 57～65 (1998)
- 6) 鷺田清一 ひとはなぜ服を着るのか 文化装置としてのファッション 日本放送出版協会 18～23 (1997)
- 7) 総務庁 高齢社会白書(平成12年版)大蔵省印刷局 80～81 (2000)
- 8) 総務庁 高齢社会白書(平成11年版)大蔵省印刷局 2～3 (1999) 引用資料は1997年調査結果である。
- 9) 鮎田崎子 岡田奈美 高齢者の着装意識と生活意識の関連－大学卒業生(60～70歳)の場合及び大学生との比較を通して－ 愛媛大学教育学部紀要 第I部 教育科学 第46巻 第2号 169～191 (2000)
- 10) 鮎田崎子 石川祥代 大学生男女の身体意識と着装行動に関する研究 愛媛大学教育学部紀要 第I部 教育科学 第47巻 第1号 167～184 (2000)
- 11) 鮎田崎子 山本美寿紀 高齢者の色彩意識と着装行動に関する研究 愛媛大学教育学部紀要 第I部 教育科学 第48巻 第1号 103～122 (2001)